



新春号



明けましておめでとうございます

皆様には健やかなお正月をお迎えになられた事と拝察しております。

特別養護老人ホーム「川口結いの家」も、創立以来12回目のお正月を迎える事ができました。その間、平穩無事に入居者の方々の生活をお守りできました事を大変うれしく思っています。スタッフの誠実な仕事、ご家族様のご協力、地域の皆様のご支援があったからこそと感謝申し上げます。

日本の少子高齢化は世界最速で進んでいます。去年発表された数字でも65歳以上の高齢者が14歳以下の年少者の人口を上回りましたし、子供の出生数が100万人を切り、総死亡者数を大きく下回りました。又、80歳以上の人口が1000万人を超え、まさに超高齢化社会が着々と進んでいます。

子供より高齢者が多い社会とは一体どんな社会なのでしょう。有識者や学者、政治家の方々もオリンピックの5年後の社会は全く未知の社会だと言っています。ただ、総じて言える事は、今までの生活を見直して暮しの仕方、価値観を変えていく必然性が生じる事です。お金以外に幸せを求める姿勢、足るを知る満足感など、物欲に寄らない生き方が求められるでしょう。すでに若い人達に見られる現象です。そんな時勢にあって人生の終わり方にも大きな変化がみられると考えています。

現在、国民総医療費は40兆円を超えています。国家予算の半分近くを占める額です。国民の病気に係わるお金なら仕方ない額ですが、無駄があるなら節約すべきです。高齢者の医療費は若者のその4倍近くかかっています。その多くを後期高齢者の終末に当てられています。老衰の域にある方々に人工栄養、人工呼吸は本当に必要なのでしょうか。もし自分の事だったらと想像し、自分のしてほしくない医療は伝えておき、自分らしい最後を迎えたいと私自身は考えています。

平成28年度に「川口結いの家」から黄泉の国へ旅立たれた方は18名おられました。皆、体に点滴やチューブをつけず、自然な姿で家族やスタッフに見守られ、静かに静かに逝かれました。

「川口結いの家」は、今年も入居者の方々の生活を支えながら、最期の看取りまで、その人らしい、ご家族が安心される介護をしていく所存です。

皆様のご協力をお願い申し上げますとともに、平穩な一年でありますことを、念じています。

理事長 堀尾 静

今年度も介護福祉士の実習生が学びに来てくれました。

3人共、それぞれの実習ユニットの入居者様や職員に温かく受け入れられ、緊張しながらも、楽しんで実習に臨んでいました。職員の指導の下、たくさんの経験を積み、毎日少しずつ介護技術を身に付け、日々成長していることがわかりました。

入居者様のことを深く知り、ケアを考え、悩み、時には落ち込んだり、反省しながら、でも、ちゃんと自分と向き合い、前向きにすごく頑張っていました。



介護福祉士 実習生



そんな一生懸命な3人の姿に職員もよい刺激を受けました。

「人に教えることの難しさを知りました」「実習生の考えを聞き、初心に帰ることができました」「お一人おひとりに合わせた個別ケアの大切さを再確認できました」などです。実習生と関わることで、職員も良い経験ができており、自分を振り返る機会になったと思います。

実習生の皆さん、5週間お疲れさまでした。

実習生の受け入れにご協力をいただいたご入居者の皆様ありがとうございました。

主任プリセプター 浅田寛子

インフルエンザの予防接種について

人間の体はウィルスに感染するとそれを排除しようとする働きがあります。感染したウィルスに対しては「抗体」という物質を作り、再び同じウィルスが体に入ってきた時はこの「抗体」がウィルスを倒します。これを「免疫」と言います。

この免疫機能を利用するのが予防接種です。感染性をなくしたインフルエンザウィルスを体に入れて抗体を作り、インフルエンザウィルスに対しての免疫力を高めます。

しかし、インフルエンザの予防接種を受けてもインフルエンザにかかる事があります。予防接種は絶対にインフルエンザにかからなくするものではなく、「ある程度の発病を阻止する」もの、またかかったとしても「症状が重くなることを阻止する」もの（発熱、咽頭痛など症状が軽く済む。治った体力の回復が早いなど）です。

これらのことから、2次感染の予防や重症化（肺炎など）しやすい高齢者は特に有効と考えられていますが、この効果も100%ではありません。インフルエンザの予防接種を行ってもすぐに予防の効果はありません。抗体は予防接種をしてから1～2週間で作られます。なので、インフルエンザが流行してから慌てて予防接種をしても抗体が出来る前に感染し発症することもあります。

また、インフルエンザの潜伏期間は1～7日間ぐらいです。この潜伏期間に予防接種をしてもインフルエンザを治す薬ではないので発症を防ぐことはできません。抗体の効果は接種して1カ月後ぐらいにピークとなり3カ月ぐらいから段々と低くなります。一般に効果は5カ月程度しかありません。1度接種すればずっと抗体が残るわけではなく、毎年予防接種する必要があります。インフルエンザは12月頃にはじまり、1～3月にピークを迎えます。予防効果が期待される抗体が出来るまでの期間（2週間）を逆算すると遅くとも11月頃には予防接種をすませたいところです。

川口結いの家では、毎年11月に入居者様・職員の予防接種を行っています。今年も入居者様・職員が、インフルエンザにかからないように願っています。

看護職員 河合美紀



～市民公開講座～

認知症の“人の気持ち”

～本人を中心に認知症ケアを考える～

「認知症」と「人」を理解してケアに生かす！！認知症でお悩みの方や、将来に備え勉強をしたい方、どなたでもご参加いただけます。

【日時】平成29年3月10日（金）

★昼の部 開演13:30/終演15:00予定

★夜の部 開演18:00/終演19:30予定

【会場】川口結いの家 地域交流スペース

座長：渡辺哲弘先生

介護の現場で介護職員・相談員・介護支援専門員・管理者として17年間勤務。
平成24年10月フリーの講師として独立、平成25年6月「株式会社きらめき介護塾」代表取締役就任、平成27年4月（社団）きらめき認知症トレーナー協会を設立。現在は研修講師として全国各地で講演活動を展開。
取得資格：認知症介護指導者・介護支援専門員・社会福祉士・介護福祉士。

参加無料

お申し込みは電話、FAXにてお問い合わせください。

TEL:0566-46-5210 FAX:0566-46-5260

12月9日 川口結いの家ブログより



師走です。温かい地区ですが、少しずつ冬の準備です。月末には、毎年恒例餅つき大会が、行われます。季節を感じながらすごすと言うのは、とても幸せですね！！
楓の葉っぱも、微妙に紅葉です。

千両です。赤い実が正月を感じますね^^

